

## 研究インタビューガイド

### インタビューの実施について

この研究インタビューガイドは、研究のためのインタビューの実施に関する倫理的問題への対処をすることを目的としています。インタビューから得られた情報が、研究結果を裏付ける研究データとして使用される場合、研究用インタビューには事前に倫理的承認が必要となります。

### 利益を最大化し、負担や損害を最小化する

参加者と研究者の両方を含む個人に対する利益とリスクを考慮し、研究プロジェクト全体の利益とリスクを比較検討することが重要です。これらには、短期的なものと同期的なもの両方が含まれます。例えば、短期的には、インタビュー対象者は、特定のテーマの研究に貢献できることや、誰かが自分の意見を聞いてくれることに価値を感じるかもしれません。一方で、インタビューに参加するには時間がかかり、デリケートな話題を扱うインタビューでは不快感や動揺が生じる可能性があります。研究者は、研究への参加や研究結果によって個人やグループが被る長期的な影響を予測し、被害を最小限に抑えるための手段を講じることができかどうかを検討する必要があります。

### インタビュー調査のデザインについて

リサーチインタビューの実施は、研究の目的と目標を達成するための効果的な方法について検討が必要です。倫理申請フォームにインタビュー方法の詳細を記載するとともに、その方法を採用した理由を説明します。その妥当性を検討できるように、補足資料（募集資料、情報シート、同意書など）を提供する必要があります。

- 十分なインタビュー者数とは？

インタビューの数が少なすぎると、リサーチ・クエスチョンに答えるのに十分なデータが得られない一方、インタビューの数が多すぎると、必要以上のデータが得られたり、分析や執筆の時間が取れなくなったりします。また、インタビューの形式、長さ、頻度など、インタビューの他の側面についても考慮する必要があります。

- インタビュー前インタビュー内容を公開するべきか？

インタビューの前に回答を考え始めるのに役立つ場合もありますが、インタビューの種類によっては、このような方法が必要ない場合、適切でない場合があります（参加者の回答に影響を与える可能性がある等）

- インタビューに参加するための方法は？

インタビュー調査への参加は自発的なものでなければならず、参加者には、情報を得た上で参加するかどうかを決定するために必要な情報を提供する必要があります。参加者の意見がインタビュアーの意見と異なる場合も含め、参加者には尊厳と敬意を払う必要があります。研究に関する情報、真の目的について参加者に知らせない場合（それが参加者の回答に影響を与える可能性があるため）、倫理申請フォームの中で説明し、その妥当性を説明しなければなりません。また、面接者は、いつでも面接を中断できることを伝えることはもちろん、インタビュー中に疲れてきたり、休憩が必要であることを示す手がかりに気をつけなければなりません。インタビューに時間がかかりそうな場合は、参加者に休憩を促したり、軽食を用意しリラックスする時間を設ける必要があるかもしれません。インタ

ビューの方法も、個別、グループインタビュー、オンラインや対面など様々な方法があり、適切な方法について検討する必要があります。

## アクセシビリティ

研究デザインの段階から研究結果の公開・普及まで、研究全体を通してアクセシビリティに配慮することが重要です。例えば、以下のような配慮が考えられます。

### 1. インタビュー対象者の募集

インタビュー対象者は、調査対象となる集団の多様性を極力反映するべきです。また、量的調査の場合は、インタビュー対象者はその集団を代表する者である必要があります。

### 2. 対面式のインタビューの場所

インタビューが行われる会場やスペースへのアクセスが困難な場合、例えば、障害者の場合、会場とその施設へのアクセスと利用（騒音レベル、アクセス可能なトイレの近さなど）など、インタビューの手配に関して考慮すべき特別な要求が参加者にありますか？参加者が会場にアクセスするのは簡単なことでしょうか？公共交通機関でのアクセス、駐車場の有無、旅費の支払いの有無など検討されていますか？

### 3. インタビューの実施方法

インタビューに使用されるすべての情報や資料がアクセス可能な形式で提供され、休憩が提供されることを確認する必要があります。

### 4. リモートインタビューの実施方法。

参加者は、オンラインインタビューに使用されるプラットフォームにアクセスできますか？テクノロジーへのアクセス、デジタルリテラシー、障害（視覚障害、聴覚障害など）を考慮する必要があります。

## 透明性

インタビューを受ける人は、研究の目的、なぜ参加するように誘われたのか、また、自分のデータや全体的な結果の使用目的について認識しておくことが良い方法だと考えられます。インタビュー対象者は、誰がどのような立場で研究を行っているのかを理解し、詳細な情報を得るために研究チームのメンバーに連絡を取ることができ、懸念事項や苦情を申し立てる場合にはどうすればよいかを知っておく必要があります。場合によっては、インタビューの記録を参加者と共有し、内容を明確にしたり撤回したりする機会を与えることが適切な場合もあります。

## 注意の必要な話題

参加者を動揺させたり、恥ずかしい思いをさせたりする可能性のある質問が含まれる可能性があります。注意の必要な話題とは、例えば、違法行為や政治的行動、暴力・虐待・搾取の経験、精神的な健康状態、性別や民族的な立場などです。倫理申請フォームでは、なぜその質問が必要なのか、また、インタビュー対象者やインタビュアーに害を及ぼすリスクをどのようにして最小化するのかを説明する必要があります。可能な限り、インタビュー対象者には、事前にデリケートな話題が出てくる可能性があることを認識してもらい、参加するかどうかを決める際にこのことを念頭に置いてもらう

必要があります。参加者には、答えたくない質問には答えなくてもよいことを伝えなくてはなりません。参加者が自身の現状について悩みを抱えている場合、困難を抱えている場合には、インタビューの前に、あるいはインタビュー中に、関連する支援組織の連絡先など、さらなる情報源や支援を提供することが役立つ場合があります。インタビュアーは、（セラピストやカウンセラーではなく）インタビュアーとしての役割の限界を認識し、問題の可能性がある場合は、インタビューの前に対処する方法を検討しておくのが望ましいです。

## 弱者（18歳以下の若年者を含む）

まずは、弱者を関与させずに研究を実施することが可能かどうかを検討する必要があります。弱い立場にある参加者の参加が不可欠な場合は、彼らへの危害や負担を最小限に抑えるよう、特に注意を払わなければなりません。参加者は、誰か他の人に同席してもらうことを望むかもしれません（例：介護者、保護者、家族）。若年者にインタビューを行う場合、通常、親または保護者等が本人に代わってインフォームド・コンセントを提供する必要があります。インタビュー中に保護者に同席してもらうことが適切な場合もあります。

## 参加者の権利

参加者の途中退出が比較的容易なアンケートとは対照的に、インタビュー形式の性質上、参加者が質問に答えたくない場合や辞退したい場合には、その旨を伝えることがより困難になることがあります。研究者は、同意プロセスを設計する際にこのことを念頭に置き、参加者が自分の選択肢と権利を認識していることを確認する必要があります。また、参加者が提供した情報を取り消すことができる期間について、例えば、データが匿名化された後や出版のために提出された後など、インタビューの前に参加者に明らかにしておく必要があります。

参加者が参加の義務を感じず、十分なインフォームド・コンセントを提供するよう、特に注意が必要です。研究者と参加者候補の間を取り持つ人や機関を介して参加者が募集される場合や、両親や通訳など他の人が参加している場合には、参加が自発的でインフォームド・コンセントに基づくものであることを確認するために、特に注意が必要です。

## リモート、オンラインでのインタビューの実施

研究者がインタビューを対面ではなく、遠隔地やオンラインで行うことを決める理由はたくさんあります。遠隔地でインタビューを行うことは、方法論的な問題だけでなく、倫理的な問題も生じます。また、参加者が安全な場所にいるかどうか、場所が適切かどうかを判断するのはより難しいかもしれません。研究者は、自分の側の配置も考慮しなければなりません。例えば、インタビュアーが自宅で仕事をしている場合、適切な背景に邪魔されにくいプライベートな場所となっているのでしょうか？また、インタビュアーとインタビューイが物理的に離れていることも、コミュニケーションに影響を与える可能性があります。リモートでインタビューを行う場合、参加者が休憩を必要としているのか、あるいは動揺しているのかを判断するのは難しいかもしれません。特にデリケートな問題が議論されている場合には、インタビューの途中で参加者が続行しても問題ないかどうかを確認することが適切かもしれません。

## 参加者の特定への配慮

参加者が、データや研究成果からどれだけ自分を特定できるかについて理解することが重要です。状況によっては、どのように個人を特定できるかについて参加者に選択肢を与えることが適切な場合も

あります。また、個人を特定されるリスクがあるために、参加者を特定できる可能性のある情報を削除することが不可欠な場合もあります。

### インタビューの録音について

インタビューが直接行われるか、遠隔地で行われるかにかかわらず、録音の必要性と妥当性を考慮する必要があります。データ最小化の原則に沿って、インタビューは明確な必要性がある場合にのみ記録すべきです。インタビューを記録し、転写後に削除することは、完全かつ正確な非識別化された記録を得るための最良の方法であるかもしれません。記録が必要な場合は、収集する個人データの量を最小限にするための手段を講じる必要があります。例えば、ビデオ記録ではなく音声記録で十分であるかどうかを検討します。インタビューがオンラインで行われている場合、ビデオ撮影が必要であれば、背景にいる他の人を特定することができますか？倫理申請フォームには、録音の正当性を示す理由を記載する必要があります。これには、録音を保管する必要がある期間と保管方法が含まれます。

### インタビューデータの管理

インタビューでは、メモ、動画、音声データ、逐語録（匿名または非匿名）が作成されることがあります。インタビューデータの管理および保存方法については、公益財団法人 橋本財団の情報管理規程に従います。

### 研究に関与する人のリスク

インタビューを行う人の健康状態には注意が必要です。インタビューは、研究に適した環境で、インタビュアーと被インタビュー者にとって安全な場所で行うべきです。状況によっては、インタビューに別の人が同席することが有効な場合もあります。また、現地スタッフや非正規スタッフを新たに雇用する場合など、他の人がインタビューを行う場合、倫理申請フォームに記載されている問題について、適切なトレーニングとガイダンスを受ける必要があります。

## **Research Interview Guide**

### **Conducting Interviews**

This Research Interview Guide is intended to address ethical issues related to the conducting of interviews for research. It is required to obtain an ethical approval prior to conducting an interview if information obtained from the interview is to be used as research data to support study findings.

### **Maximizing benefits and minimizing burdens and damages**

It is important to consider the benefits and risks to individuals, including both participants and researchers, and to weigh the benefits and risks of an overall research project. These include both short-term and long-term impacts. For example, in the short term, interviewees may find value in being able to contribute to research on a particular topic or in having someone listen to them. On the other hand, participating in interviews takes time, and discussing sensitive topics may be discomfoting or upsetting for the interviewee. Researchers need to anticipate the long-term effects that individuals and groups may suffer as a result of their participation in the study or the subsequent findings, and consider how the harms can be minimized.

### **The design of the interview study**

When conducting a research interview, a researcher must consider the most effective research method to achieve their study's purpose and objectives. The details of the interview method should be included in the ethics application form, as well as an explanation of why the method was chosen. Supplementary materials (e.g., recruitment materials, information sheets, consent forms) should be provided to allow for an ethics review of the materials.

### **What is a sufficient number of interviewees?**

Too few interviews will not provide enough data to answer your research questions, while too many interviews will provide more data than you need and leave less time for analysis and writing. Other aspects of the interview, such as the format, length, and frequency of the interview(s), should also be considered.

### **Should the pre-interview interview content be made public?**

While it may be helpful to begin thinking about potential responses before the interview, depending on the interview topics, this may not be necessary or appropriate (i.e., it may influence the participant's responses).

### **Conditions for interview participation**

Participation in an interview must be voluntary, and participants must be provided with the information they need to make an informed decision about whether or not to participate. Participants need to be treated with dignity and respect, including cases when their opinions differ from those of the interviewer. If you do not inform participants of the information about the study or its true purpose (because it may affect their responses), you must explain this in the ethics application form and justify it. The interviewer should also inform the participants that they can pause or end the interview at any time, but also be attentive to indicators that the participant may be getting tired or is in need of a break d

uring the interview. If the interview is going to take a long time, it may be necessary to encourage participants to take a break or provide refreshments as a time to relax. There are various methods of interviewing, including individual and group interviews, online and face-to-face, etc. Appropriate methods need to be considered.

## **Accessibility**

It is important to consider accessibility throughout the entire research process, from the research design stage to the publication and dissemination of research results. For example, this includes the following considerations:

### **1. Recruitment of interviewees**

Participation should reflect the diversity of the population being studied as much as possible. In the case of quantitative research, the interviewees should be representative of the population.

### **2. Locations of face-to-face interviews**

Researchers should ensure that the venue or the space of the interview is accessible; for example, for physically disabled persons. Do the participants have any special requirements that should be considered, such as access to and use of the venue and its facilities (noise level, proximity to accessible restrooms, etc.)? Is it easy for participants to access the venue? Have you considered the availability of public transportation and parking lots and costs, and whether travel expenses will be reimbursed?

### **3. How interviews will be conducted**

Researchers need to ensure that all information and materials used in the interview are provided in an accessible format and that breaks are provided.

### **4. How to conduct remote interviews**

Will participants have access to the platform used for online interviews? Access to technology, digital literacy, and disabilities (e.g., visual and hearing impairments) need to be considered.

## **Transparency**

It is considered a good practice to inform a participant of the purpose of the study, why they were invited to participate, and the intended use of their data and overall results. Interviewees need to understand who is conducting the research and in what capacity, be able to contact members of the research team for more information, and know what to do if they have concerns or complaints. In some cases, it may be appropriate to share the transcript of the interview with the participants and give them an opportunity to clarify or retract the content.

## **Sensitive topics that require attention**

Sensitive questions may upset or embarrass participants. Sensitive topics include, for example, illegal or political behavior; experiences of violence, abuse, or exploitation; mental health conditions; and gender or ethnicity. The ethics application form should explain why such questions are necessary and how the risks or harms to the interviewee will be minimized.

imized. Whenever possible, interviewees should be made aware in advance that sensitive topics may come up, and they should keep this in mind when deciding whether or not to participate. You must let participants know that they do not have to answer any questions they do not want to. If the participant is struggling, it may be helpful to provide further resources and support, such as contact information for relevant support organizations, before, during, or after the interview. It is advisable for researchers to be aware of the limitations of their role as an interviewer (as opposed to a therapist or counselor) and to consider ways to address any potential problems before the interview.

### **Vulnerable persons (including young people under the age of 18)**

First, it is necessary to consider whether it is possible to conduct the research without involving vulnerable participants. If the participation of vulnerable persons is essential, special care must be taken to minimize harm or burden to them. Participants may wish to have someone else present (e.g., caregiver, guardian, family member).

When interviewing young people under the age of 18, it is usually necessary for a parent or guardian to provide informed consent on their behalf. In some cases, it may be appropriate to have a parent or guardian present during the interview.

### **Participant's rights**

In contrast to questionnaires, where it is relatively easy for participants to stop and leave, the nature of the interview format may make it more difficult for participants to communicate if they do not want to answer questions or if they wish to withdraw. Researchers need to keep this in mind when designing the consent process and ensure that participants are aware of their options and rights. It should also be made clear to participants prior to the interview how long they can withdraw the information they have provided, for example, after the data has been anonymized or submitted for publication.

Special care should be taken to ensure that participants do not feel obligated to participate and to provide informed consent. If participants are recruited through a person or institution that serves as a liaison between the researcher and the potential participant, or if others are involved, such as parents or interpreters, special care must be taken to ensure that participation is voluntary and based on informed consent.

### **Conducting interviews remotely and online**

There are many reasons why researchers may decide to conduct interviews remotely or online rather than in person. Conducting interviews remotely raises not only methodological issues, but also ethical issues. It may also be more difficult to determine whether participants are in a safe place and if the location is appropriate. The researcher's own interview environment should also be considered. For example, if the interviewer is working at home, is it a private place with low possibility for disruption? Does the researcher have an appropriate backdrop? The physical distance between the interviewer and interviewee can also affect communication. When conducting an interview remotely, it can be difficult to determine if the participant needs a break or is upset. If particularly sensitive issues are being discussed, it may be appropriate to ask if it is okay for the participant to keep going with the interview.

### **Considerations for participant identification**

It is important to understand the extent to which participants may be identifiable from the data and research findings. In some situations, it may be appropriate to give participan

ts choices about how identifiable they will be. In other cases, it may be essential to remove information that could reveal the identity of the participant because of the risk of being personally identified.

### **Recording of interviews**

Regardless of whether interviews are conducted in person or remotely, the necessity and appropriateness of recording should be considered. In line with the principle of data minimization, interviews should only be recorded when there is a clear need to do so. Recording the interview and deleting it after transcription may be the best way to obtain a complete and accurate de-identified record. If recording is necessary, steps should be taken to minimize the amount of personal data collected. For example, consider whether an audio recording rather than a video recording would suffice. If the interview is being conducted online, can you identify other people in the background when video recording? The ethics application form should include a justification for recording and the type of recording. This includes how long the recording needs to be kept and how it will be stored.

### **Managing interview data**

A researcher may produce notes, videos, audio data, and verbatim transcripts (anonymized or non-anonymized) during an interview.”. Interview data management and storage methods will be in accordance with Hashimoto Foundation’s Information Management Rules.

### **Risks to persons involved in the research**

The wellbeing of interviewees and interviewers must be carefully considered. Interviews should be conducted in an environment suitable for research and safe for both the interviewer and interviewee. In some situations, it may be helpful to have another person present during the interview. If another person will be conducting the interview, such as a newly hired field assistant or non-permanent staff member, they should also receive appropriate training and guidance on the issues listed in the Ethics Application Form.